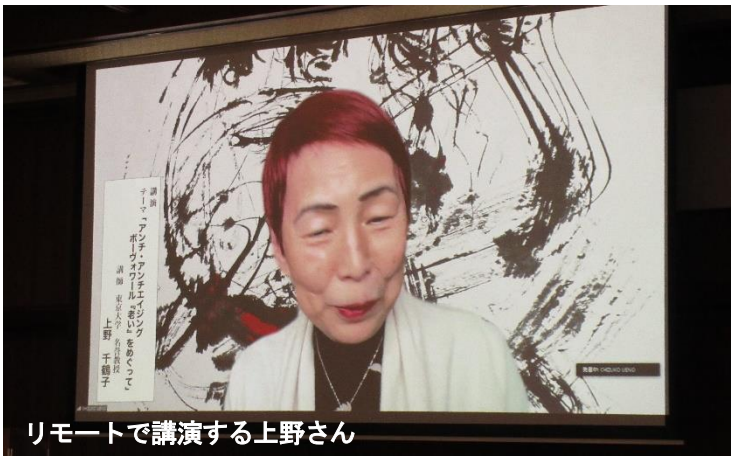
ふれあい情報

2022年3月14日（月）　第341号

■発　行　日本退職者連合
■発行人　野田那智子
■連絡先　〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台3-2-11

＜TEL＞03-5295-0507　＜FAX＞ 03-5295-0541　＜e-mail＞ ntr@sv.rengo-net.or.jp



リモートで講演する上野さん

ジェンダー平等推進のための学習会

アンチ・アンチエイジングの思想
ボーヴォワール『老い』を読む

講師　上野千鶴子さん

3月7日（月）、退職者連合は上野千鶴子さん講師にお招きして、ジェンダー平等学習会を行いました。コロナ感染症の感染状況を踏まえ、講演はリモートで行われました。

森嶋ジェンダー平等委員会委員長、連合・井上総合局長のあいさつに続き、ジェンダー平等委員会の本村事務局長がこの間取り組んだ「ジェンダー平等アンケート」の結果を報告。連合会館201会議室には産別・近隣地方組織を中心に70人が集まり、並行して30人以上の方にＷＥＢでご参加いただきました。

老いは文明のスキャンダルである
シモーヌ・ド・ボーヴォワール

「人間がその最後の15年ないし20年の間、もはや一個の廃品でしかないという事実は、我々の文明の挫折をはっきり示している」

今から50年前、63歳のボーヴォワールはこう書きました。先見の明があったねえ、と思います。老いは、個人の苦痛とかではなくて、文明の問題なんだと。このことを「スキャンダル」と表現しました。また、

「老いというのは、他者から見ての私という存在。それを通して私が自分に対して持つ意識。その間の弁証法的関係」だと彼女は書きました。

今の女の子たちは、「二十歳過ぎたらばばあだ」と平然と言います。私の周りにも、「おばあちゃん」と呼ばせない、という友達がいます。「洋子ちゃん」とかね。

「お若いですね」と言われるのも嫌な感じがしますよね。その前に「お年の割には」が付いてますから。ツルゲーネフは「人生で最悪のこと。それは55歳以上であることだ」と言いました。

ボーヴォワールはこういう嫌な言葉をたくさん引用しています。この人たち、自分もいずれそうなるって思ってなかったんですかね。

でもそうなると、これを避けたいと思う気持ちが出てくるのは不思議ではありません。

森嶋正治
ジェンダー平等委員会委員長

ロシアのウクライナ侵攻は絶対許せない。それぞれの組織で行動を起こそう。ジェンダー平等は人権問題の最たるもの。さらなる歩みを。

井上久美枝
連合総合政策推進局
総合局長

連合も、ロシア大使館に抗議文を送った。明日は交際女性デーだが、連合も女性会長が誕生。女性が働くことに対する不条理をなくすことが第一。誰もが働きやすい社会をめざして取り組む。

本村富美子
ジェンダー平等委員会事務局長

ジェンダー平等アンケートでは、女性会員数などこれまでの日本社会のあり方が反映されている。一方、議論や方針化は着実に進んでいる。アイデアを出しながら前進させたい。

老人を嫌悪する社会が生む、自己差別と自己否定感

ピンピンコロリは無理

サクセスフルエイジングという言葉がありますが、いやな感じです。これは、「壮年期を死の直前まで引き延ばす思想」であり、老い衰えることを見たくない、考えたくない思想です。ピンピンコロリ運動ですね。

でもね、無理です。望んでもかないません。

ほとんどの人はゆっくり死ぬ。ゆっくり階段を下りて行って要介護になって。

寝たきりの期間の平均は8.6か月です。この状態であっても8.6か月生きてられる社会を私たちは作り出したということなんです。

老人の無力感は自己差別

そういう時に、かつての自分と比べて、無力な自分が許せない、ふがいない、と感じる。これを自己否定感と言います。社会学では、これはマイノリティが持つ自己否定感と似通っているといわれています。黒人はこすっからいとか、女性はすぐヒステリーを起こすとか、マジョリティの社会の支配的な価値を反映したものです。

高齢者になった時に、かつて自分が持っていた価値観が自分を責め立てる自己差別なんですね。差別の中でつらいのは、自分自身を差別することです。今の状態がふがいない、なさけない。それが、無力感や抑うつ状態になっているわけです。

変動の速い社会はアンチエイジングに走る

年寄りがあらゆる社会で嫌がられていたかというと、そんなことはありません。

どんな社会が老人を大事にするかということは、比較老年学という学問でいくつかわかっています。例えば、「年寄りの地位は社会変動の速さと反比例する」「文字を持たない社会の方が地位が高い」「財産の所有権を持っていると高い」などです。皆さん、子や孫に贈与なんかしない方がいいですよ。

変動の速い社会というとアメリカですね。1世より2世、2世より3世の方がよりアメリカ人になっていく。そこに社会とテクノロジーの変化が加わって、「古い」と言われるとアウト、全否定になってしまう。そこでは「お若いですねえ」が誉め言葉になる。

それがマーケットになるとアンチエイジングになります。しわ取りクリームとか、巨大なマーケットです。できるだけ若さを維持しようという、生涯現役思想です。

エイジズムとたたかう

こういう「若さに価値がつく」「年取ったことにマイナスがつく」社会、これをエイジズムと言います。この言葉はアメリカで聞きましたが、一方アンチ・エイジズムの思想もアメリカの女性の中から生まれました。

女の人は男性以上に「加齢恐怖」を持っています。最近まで、女性に年齢を聞くのは失礼だ、と思われていた時代がありました。なぜ失礼と考えるかというと、年を取ることがマイナスの価値だからです。女の価値は若さと美しさで測られる。賞味期限がある。風俗業界がそうですよね。新人が一番価値が高い。

「かわいい」は弱者の戦略

背景にはジェンダーの非対称性

そんな中で、どんなおばあちゃんになりたいかってアンケートで聞くと、圧倒的に多いのは「かわいいおばあちゃん」です。東大女子に聞いても「かしこい」より「かわいい」の方がうれしい、と。

「かわいい」というのは、「決してあなたの上に立ちません。脅かしません」というのを証明してあげているようなものです。おじさんに「かわいい」って言ったら、むっとするでしょう。

「かわいい」というのは、侮られている、ということ。かわいがられてなんぼ、という弱者の生存戦略ですね。

「かわいい」という言葉の背後には、ジェンダーの非対称性があります。一生弱者で暮らすことを運命づけられているのが女、だということになります。

清水好子さんは、介護保険ができた時に「年寄が、かわいくてもかわいくなくてもお世話してもらえるのが介護保険というものよ」と言いました。女は歴史的にはケアする性でした。ケアされる側に立ってはいけなかった。

老人をどう処遇するかでその社会の質が問われる
・・・ボーヴォワールの予見

ボーヴォワールは、当時のフランスの介護施設の様子を次のように描きました。

「部屋は大部屋、規則は厳しく、ユニフォームを着せられ、面会はまれで外出は制限」

「家族がバカンスに行くために老人を病院に預け、そのまま迎えに来ない」

日本と似ています。認知症の年寄に施設に入ろうといっても聞かないから「ばあちゃん、花見に行こう」といって連れ出して「いいとこだね」とか言って施設に置いてくる。いっしょです。

「退職者の多くは子供たちの近くで暮らすために、それまでの住居を離れるが、子供たちは彼らにかまってはくれず、結局無駄に自分の生活習慣を犠牲にしたことになる」とも言っています。呼び寄せですね。今日の私たちの状況を予見しています。要するに、子どもと同居したり、子どものことを頼って引っ越してきたりするな、と。

最近、面白いことが起きています。おっさん向けの週刊誌に「一人になったらどうする」という特集が次々と組まれ、「やってはいけないことリスト」があって、「再婚するな」「子供と同居するな」「家を手放すな」「老人ホームに入るな」「子供に財産を渡すな」と。

考えてみたら、これは私がずっと言ってきたことです。かつて非常識と言われたことが180度変わって、常識になったということでしょう。

坂道を下るノウハウを

自分のピークは何歳くらいと思うか調査すると、男性50台、女性30台です。死ぬに死ねない人生百年時代、人生の前半と後半が同じくらいの長さになるわけです。

前半は上り坂だが、後半は下り坂。私たちは、追いつき追い越せ、という坂を上るノウハウは教わってきたが、下りのノウハウは教わっていません。この世代は、個人史も下り坂で、同時に社会全体も下り坂にはいっています。

来たる「ヨタヘロ期」をどう生きるか
弱者が弱者のままで尊重される社会を

今、私たちはそんなに簡単に死ねない社会に入りました。人生の最後に必ず「ヨタヘロ期」がやってくる。社会保障の問題になります。

介護保険以前、ケア労働はただ働きだった

皆さん方は厚生年金ですよね。マクロ経済スライドで削られていくとは言え、何とか生き延びていけると思います。問題なのは国民年金で、満額でも生保より低い。

やっと20年前に作ったのが介護保険ですが、これを保険方式にして本当に良かったと思うのは、保険料を払っているのだからサービスは受けなきゃ損、という権利意識が生まれたことです。

その中で、介護サービス市場が生まれ、事業者が参入し、専門職が育ちました。そして、ケアワークが「ただ働き」でなくなったのです。

依存することが「誇り」である社会を

私たちは「追いつけ追い越せ」でやってきました。みなさん方は退職者だから、そこから降りている訳です。降りるときは、「支えあいと分かち合い」です。これまで人に迷惑をかけないように、って生きてきた訳ですが、依存したっていいじゃないか。「依存しあうことが恥ではなく、誇りであるような社会を作りたい」と私は30年前に『家父長制と資本』に書きました。

それなら、私たちはどんな社会が欲しいのか、というので考えてみました。

東大の入学式で、私は「フェミニズムは弱者が弱者のままで尊重される社会を求める思想だ」と言いました。そんなフェミニズムの定義ははじめて聞いたと、とりわけ男性からいわれました。

別に女は男のように、強者、支配者、差別者になりたいわけではない。

日本社会そのものがどう考えてもピークを越しました。そこで、自分一人だけ抜け駆けして強者になろうというより、弱者になっても安心できる社会、要介護にならないようピンピン体操をする余裕があるなら、そうなっても平気な社会になるよう頑張った方がいい。

認知症は今のところ、予防も原因も治療法もわからない病気です。だれがなるかわかりません。5人に一人はなりますから。

その時に、認知症になっても、障害を持っても安心して過ごせる社会というのが私たちの願いです。

突然死なない方がいい

みんな衰えて、ゆっくり死んでいきます。突然死なない方がいいですよ。家族に思いを残します。死に向かう準備に十分な時間を家族に与えて、死んだときに悲しみと、もう一つ、これで解放される、という安堵感を与える。

介護者は大変なわけですが、そこそこの負担は背負ってもらった方がいい。そうやって、かつて強者だった親が衰えていく姿をきちんと見せてほしい。

生き死にかかわることは、家族も介護職も、みんなで最後まで迷いぬけばいい。なぜなら正解がないから。真剣に迷いぬいたことが子供にとっての財産になるんです。

介護保険改悪を許さない

こういうことが言えるようになったのは、介護保険のおかげです。以前は、在宅の看取りは困難で、在宅ひとり死は想像することさえできませんでした。独居の在宅を支えるのは、医者でも看護師でもなく、介護職です。

この介護職をささえる介護保険が、今えらいことになっています。

政府が考えているのは、要介護は、軽度を外す。要介護3以上に限定して三段階くらいにする。生活を外して身体に限定。ケアプランの有料化。施設介護の基準配置を3対1から4対1に。こういうのを制度の空洞化といいます。制度はあるけど使えない。

私たちはやっと介護の社会化の第一歩を踏み出したところです。これが、もう一度家族に戻るか、自費で介護サービスを買うかのどちらかになります。きちんと監視して、介護保険の改悪をぜひ押し返したいと思います。

ボーヴォワールは次のように言っています。**「私は若い人々の中に人類が継続すること、そして人類がよりよい時代を持つことを望む。この希望がなければ、私がそれに向かって進んでいる老いは、私にはまったく耐え難い」**

人類がより良い時代に向かって進んでいると到底思えないのは、今のウクライナです。それ以前に、香港とミャンマーもありました。

こんなことが目の前で起きるとは、と思います。

退職者連合の皆様には、どうぞ、次の世代に、誇りをもって手渡すことができるような世の中を残していただきたい。私自身の責任だとも思っています。

ロシアはただちに軍事行動を停止し、速やかに撤兵を！！

2022年2月28日

ロシア軍のウクライナ侵攻に抗議し、軍事行動の即時停止を求める談話

日本退職者連合
事務局長　野田　那智子

１．ロシアによるウクライナ軍事侵攻を強く非難する

2月24日、ロシアのプーチン大統領はウクライナに対する軍事侵攻を開始しました。これはウクライナの主権と領土を一方的に侵害し、国家間紛争の平和的な解決を定めた国際法や国連憲章を軍靴で蹂躙する断じて許すことのできない蛮行です。プーチン大統領に対し、速やかな軍事行動の停止と撤兵を強く要求します。

２．戦争の停止と人道支援に、日本政府は積極的な外交努力を

報道によれば、ロシア軍の侵攻以降、ミサイル攻撃や地上部隊による戦闘が行われ、民間人を含む多くの死傷者が出ています。ウクライナ国民ならびにウクライナに暮らすすべての人々の命と自由を守ることが、いま最も重要な課題です。

また戦闘の拡大にともない、女性や子どもをはじめ多くの市民が難民として近隣諸国に避難をはじめています。ウクライナにおける戦争の停止と人道的支援に向けた国際社会の結束した取り組みが喫緊の課題となっています。日本政府には、このための積極的な外交努力を求めます。

３．国際紛争の平和的な解決に向けて

ロシアによる軍事侵攻は、かつてベトナム、イラクその他多くの国や地域に対してなされた、軍事力による現状変更の試みが決して過去のものではないこと、そして軍拡競争が戦争を誘発することを改めて明らかにしました。さらにプーチン大統領は、国際社会に対して核戦力を誇示し、脅威を与えています。

国際紛争の平和的な解決に向けて、人類は1928年の不戦条約以降、国家の政策手段としての戦争を禁止する規範を作り上げてきました。その理念は日本国憲法にも継承されています。いま必要なことは核兵器廃絶と軍縮の推進です。国連は2018年に軍縮アジェンダを発表して、未来世代のための軍縮を訴えています。日本政府に対し、憲法の平和主義の理念を高く掲げて、世界軍縮の先頭に立つことを強く求めます。